

第1章 C++の概要	1
第2章 C++の実行	3
2.1 C++の実行の仕組み	3
2.2 簡単な1つのソースファイルからなるプログラムの実行	3
2.2.1 サンプルコード	4
2.2.2 コンパイル	5
2.2.3 実行	5
2.3 GCC: C++コンパイラ	6
2.3.1 コンパイラオプション	6
2.3.2 ヘッダーファイルの省略	7
2.3.3 コンパイル済みヘッダー (precompiled header)	9
2.4 Make: ビルドシステム	11
2.4.1 コンパイルと実行のまとめ	11
2.4.2 依存関係を解決するビルドシステム	12
2.4.3 依存関係を記述するルール	13
2.4.4 コメント	16
2.4.5 変数	16
2.4.6 自動変数	17
2.4.7 PHONY ターゲット	18
2.5 入門用の環境構築	19
第3章 C++ヒッチハイクガイド	21
3.1 最小のコード	21
3.2 標準出力	22
3.3 文字列	24
3.4 整数と浮動小数点数	25
3.5 変数 (variable)	27
3.6 関数 (function)	31
3.7 本当の関数	34
第4章 デバッグ: コンパイルエラーメッセージの読み方	37
4.1 文法エラー	38
4.2 意味エラー	44
4.3 コンパイラのバグ	45

第 5 章 条件分岐の果てのレストラン	47	第 9 章 メモリーを無限に確保する	121
5.1 複合文	47	9.1 これまでのまとめ	121
5.2 条件分岐	50	9.2 vector	122
5.3 条件式	54	第 10 章 デバッグ：printf デバッグ	135
5.3.1 条件とは何だろう	54	10.1 実践例	135
5.4 bool 型	56	10.2 std::cerr	141
5.5 bool 型の演算	58	10.3 まとめ	143
5.5.1 論理否定: operator !	58	第 11 章 整数	145
5.5.2 同値比較: operator ==, !=	59	11.1 整数リテラル	145
5.5.3 論理積: operator &&	60	11.1.1 10 進数リテラル	145
5.5.4 論理和: operator	61	11.1.2 2 進数リテラル	146
5.5.5 短絡評価	63	11.1.3 8 進数リテラル	146
5.6 bool の変換	64	11.1.4 16 進数リテラル	146
第 6 章 デバッグ：コンパイル警告メッセージ	69	11.1.5 数値区切り	147
第 7 章 最近体重が気になるあなたのための標準入力	73	11.2 整数の仕組み	147
7.1 これまでのおさらい	73	11.2.1 情報の単位	147
7.2 標準入力	75	11.2.2 1 バイトで表現された整数	148
7.3 リダイレクト	78	11.3 整数型	151
7.4 パイプ	80	11.3.1 int 型	151
7.5 プログラムの組み合わせ	81	11.3.2 long int 型	152
第 8 章 ループ	83	11.3.3 long long int 型	153
8.1 これまでのおさらい	83	11.3.4 short int 型	153
8.2 goto 文	84	11.3.5 char 型	153
8.2.1 無限ループ	84	11.4 整数型のサイズ	154
8.2.2 終了条件付きループ	86	11.5 整数型の表現できる値の範囲	155
8.2.3 インデックスループ	88	11.6 整数型の変換	157
8.3 while 文	95	第 12 章 浮動小数点数	159
8.3.1 無限ループ	95	12.1 浮動小数点数リテラル	161
8.3.2 終了条件付きループ	97	12.1.1 10 進浮動小数点数リテラル	161
8.3.3 インデックスループ	99	12.1.2 10 進数の仮数と指数による表記	161
8.4 for 文	103	12.1.3 16 進数の仮数と指数による表記	162
8.5 do 文	107	12.2 浮動小数点数の表現と特性	163
8.6 break 文	108	12.2.1 +0.0 と -0.0	163
8.7 continue 文	109	12.2.2 $+\infty$ と $-\infty$ (無限大)	163
8.8 再帰関数	111	12.2.3 NaN (Not a Number)	164
		12.2.4 有効桁数	164
		12.3 浮動小数点数同士の変換	165

12.4	浮動小数点数と整数の変換	166	16.11	generate	227
第 13 章 名前		167	16.12	remove	228
13.1	キーワード	167	第 17 章 ラムダ式		231
13.2	名前に使える文字	168	17.1	基本	231
13.3	宣言と定義	169	17.2	キャプチャー	234
13.4	名前空間	170	17.2.1	コピーキャプチャー	234
13.4.1	グローバル名前空間	173	17.2.2	リファレンスキャプチャー	235
13.4.2	名前空間のネスト	174	第 18 章 クラスの基本		237
13.4.3	名前空間名の別名を宣言する名前空間エイリアス	174	18.1	変数をまとめる	237
13.4.4	名前空間名の指定を省略する using ディレクティブ	176	18.2	まとめた変数に関数を提供する	241
13.4.5	名前空間を指定しなくてもよい inline 名前空間	178	第 19 章 より自然に振る舞うクラス		249
13.5	型名	179	19.1	より自然な初期化	250
13.5.1	型名の別名を宣言するエイリアス宣言	179	19.2	自然な演算子	258
13.6	スコープ	181	19.3	演算子のオーバーロード	261
第 14 章 イテレーターの基礎		185	19.3.1	二項演算子	261
14.1	イテレーターの取得方法	185	19.3.2	単項演算子	264
14.2	イテレーターの参照する要素に対する読み書き	186	19.3.3	インクリメント/デクリメント	265
14.3	イテレーターの参照する要素を変更	186	19.3.4	メンバー関数での演算子のオーバーロード	267
14.4	イテレーターの比較	187	第 20 章 std::array		269
14.5	最後の次の要素へのイテレーター	188	第 21 章 プログラマーの三大美德		273
14.6	なんでもイテレーター	190	第 22 章 配列		275
14.7	イテレーターと添字の範囲	192	22.1	ナイーブな array 実装	275
第 15 章 lvalue リファレンスと const		197	22.2	配列	276
15.1	lvalue リファレンス	197	第 23 章 テンプレート		281
15.2	const	200	23.1	問題点	281
第 16 章 アルゴリズム		205	23.2	関数の引数	282
16.1	for_each	205	23.3	関数のテンプレート引数	283
16.2	all_of/any_of/none_of	211	23.4	テンプレート	285
16.3	find/find_if	213	23.5	クラステンプレート	288
16.4	count/count_if	217	第 24 章 array をさらに実装		291
16.5	equal	218	24.1	ネストされた型名	291
16.6	search	221	24.2	要素数の取得: size()	293
16.7	copy	222	24.3	メンバー関数の const 修飾	294
16.8	transform	225	24.4	先頭と末尾の要素: front/back	299
16.9	replace	226			
16.10	fill	226			

24.5	全要素に値を代入: fill	300	28.2	イテレーターカテゴリー	387
第 25 章	array のイテレーター	301	28.2.1	ランダムアクセスイテレーター	387
25.1	イテレーターの中身	301	28.2.2	双方向イテレーター	390
25.2	残りのイテレーターの実装	315	28.2.3	前方イテレーター	390
25.3	const なイテレーター: const_iterator	318	28.2.4	入力イテレーター	391
第 26 章	傲慢なエラー処理: 例外	325	28.2.5	出力イテレーター	392
26.1	例外を投げる	325	28.3	iterator_traits	393
26.2	例外を捕まえる	329	28.4	イテレーターカテゴリーの実例	395
26.3	例外による巻き戻し	331	28.4.1	出力イテレーター	395
第 27 章	ポインター	337	28.4.2	入力イテレーター	398
27.1	意味上のポインター	337	28.4.3	前方イテレーター	403
27.1.1	リファレンスと同じ機能	337	28.4.4	双方向イテレーター	408
27.1.2	リファレンスと違う機能	340	28.4.5	ランダムアクセスイテレーター	409
27.1.3	代入	340	28.5	イテレーター操作	414
27.1.4	何も参照しない状態	340	28.5.1	advance(i, n): n 移動する	414
27.1.5	明示的に何も参照しないポインター: nullptr	341	28.5.2	distance(first, last): first から last までの距離	415
27.1.6	無効な参照先の作り方	342	28.5.3	next/prev: 移動したイテレーターを返す	415
27.2	文法上のポインター	343	28.6	リバースイテレーター	417
27.2.1	ポインターと const の関係	343	第 29 章	動的メモリ確保	419
27.2.2	ポインターのポインター	348	29.1	概要	419
27.2.3	関数へのポインター	351	29.2	malloc/free	420
27.2.4	配列へのポインター	355	29.3	operator new/operator delete	420
27.2.5	ポインター型の作り方	356	29.4	生のバイト列を基本的な型の値として使う方法	421
27.2.6	クラスへのポインター	358	29.5	メモリ確保の失敗	422
27.2.7	this ポインター	361	29.6	クラス型の値の構築	423
27.2.8	メンバーへのポインター	363	29.7	new/delete	426
27.3	ポインターの内部実装	371	29.8	配列版 new/delete	427
27.3.1	キロバイトとキビバイト	371	29.9	スマートポインター	427
27.3.2	メモリとアドレス	372	第 30 章	vector の実装: 基礎	429
27.3.3	ポインターのサイズ	372	30.1	std::allocator<T> の概要	430
27.3.4	ポインターの値	373	30.2	std::allocator<T> の使い方	431
27.3.5	std::bit_cast の実装	375	30.3	std::allocator_traits<Alloc>	433
27.3.6	std::memcpy の実装	375	30.4	簡易 vector の概要	435
27.3.7	データメンバーへのポインターの内部実装	382	30.5	class とアクセス指定	436
第 28 章	イテレーター詳細	385	30.6	ネストされた型名	440
28.1	イテレーターとポインターの関係	385	30.7	簡易 vector のデータメンバー	441
			30.8	簡単なメンバー関数の実装	443
			30.8.1	イテレーター	443

30.8.2	容量確認	447
30.8.3	要素アクセス	448
第 31 章	vector の実装：メモリー確保	451
31.1	メモリー確保と解放の起こるタイミング	451
31.2	デフォルトコンストラクター	454
31.3	アロケーターを取るコンストラクター	454
31.4	要素数と初期値を取るコンストラクターの実装	455
31.5	ヘルパー関数	455
31.5.1	ネストされた型名 traits	456
31.5.2	allocate/deallocate	456
31.5.3	construct/destroy	456
31.5.4	destroy_until	457
31.6	clear	458
31.7	デストラクター	458
31.8	reserve の実装	458
31.9	resize	462
31.10	push_back	465
31.10.1	shrink_to_fit	467
31.11	vector のその他のコンストラクター	469
31.11.1	イテレーターのペア	469
31.11.2	初期化リスト	470
第 32 章	コピー	471
32.1	普通のコピー	471
32.2	コピーコンストラクター	473
32.3	コピー代入演算子	474
32.4	コピーの挙動	475
32.5	所有するクラス	478
32.6	own<U> から own<T> への変換	480
32.7	もう少し複雑な所有するクラス	482
32.8	vector のコピー	484
32.8.1	コピーコンストラクター	484
32.8.2	コピー代入演算子	485
第 33 章	ムーブ	489
33.1	ムーブの使い方	489
33.2	ムーブの中身	491

第 34 章	rvalue リファレンス	497
34.1	概要	497
34.2	rvalue リファレンスの宣言	497
34.3	値カテゴリー	500
34.3.1	lvalue	500
34.3.2	prvalue	500
34.3.3	xvalue	501
34.3.4	rvalue	503
34.3.5	glvalue	503
34.4	rvalue リファレンスのライブラリ	504
34.4.1	std::move	504
34.4.2	std::move の実装	504
34.4.3	フォワーディングリファレンス	505
34.4.4	std::remove_reference_t	507
34.4.5	std::move の正しい実装	508
34.4.6	std::forward	508
第 35 章	ムーブの実装	511
35.1	コピーとムーブの判別	512
35.2	ムーブの実装	514
35.2.1	ムーブコンストラクター	515
35.2.2	ムーブ代入演算子	515
35.3	デフォルトのムーブ	518
35.4	コピーの禁止	519
35.5	5 原則	520
第 36 章	スマートポインター	521
36.1	unique_ptr	522
36.2	shared_ptr	525
第 37 章	自作の数値クラスで演算をムーブに対応する方法	531
37.1	基本の実装	531
37.2	複合代入演算子	533
37.3	単項演算子	534
37.4	二項演算子	540
37.4.1	ムーブしない実装	540
37.4.2	ムーブをしたくなる状況	542
第 38 章	文字列	547
38.1	はじめに	547

38.2	基本ソース文字セット	547
38.3	基本実行文字セット	548
38.4	文字を表現する方法	548
38.4.1	ASCII	548
38.4.2	Unicode	548
38.5	OS	550
38.6	リテラル	551
38.6.1	通常の文字リテラル	551
38.6.2	ユニバーサルキャラクター名	552
38.6.3	通常の文字列リテラル	552
38.7	ワイド文字	554
38.8	UTF-8/UTF-16/UTF-32	555
38.9	生文字列リテラル	557
38.10	文字列の表現方法	558
38.10.1	null 終端文字列	558
38.10.2	std::basic_string	559
38.10.3	std::basic_string_view	562
38.11	文字列の操作	564
38.11.1	null 終端文字列の操作	564
38.11.2	basic_string の操作	566
38.11.3	basic_string_view の操作	575
第 39 章	乱数	577
39.1	疑似乱数	577
39.2	乱数エンジン	578
39.3	乱数分布	580
39.4	シード	582
39.5	予測不可能な乱数	584
39.6	十分なシード値の量	585
39.7	乱数分布ライブラリ	586
39.8	分布クラス	588
39.9	一様分布 (Uniform Distribution)	590
39.9.1	整数の一様分布 (std::uniform_int_distribution<IntType>)	590
39.9.2	浮動小数点数の一様分布 (uniform_real_distribution<RealType>)	591
39.10	ベルヌーイ分布 (Bernoulli distributions)	591
39.10.1	ベルヌーイ試行	592
39.10.2	ベルヌーイ分布 (std::bernoulli_distribution)	593
39.10.3	二項分布 (std::binomial_distribution<IntType>)	595
39.10.4	幾何分布 (std::geometric_distribution)	597

39.10.5	負の二項分布 (std::negative_binomial_distribution)	599
39.11	ポアソン分布	602
39.11.1	ポアソン分布 (poisson_distribution)	602
39.11.2	指数分布 (std::exponential_distribution<RealType>)	603
39.11.3	ガンマ分布 (std::gamma_distribution<RealType>)	605
39.11.4	ウェイブル分布 (std::weibull_distribution<RealType>)	606
39.12	極値分布 (std::extreme_value_distribution<RealType>)	606
39.13	正規分布	607
39.13.1	正規分布 (std::normal_distribution<RealType>)	607
39.13.2	対数正規分布 (std::lognormal_distribution<RealType>)	608
39.13.3	カイ二乗分布 (std::chi_squared_distribution<RealType>)	608
39.13.4	コーシー分布 (std::cauchy_distribution<RealType>)	609
39.13.5	フィッシャーの F 分布 (std::fisher_f_distribution<RealType>)	610
39.13.6	スチューデントの t 分布 (std::student_t_distribution<RealType>)	610
39.14	サンプリング分布 (sampling distributions)	611
39.14.1	離散分布 (std::discrete_distribution<IntType>)	611
39.14.2	区分定数分布 (std::piecewise_constant_distribution<RealType>)	614
39.14.3	区分線形分布 (std::piecewise_linear_distribution<RealType>)	619

第 40 章 C プリプロセッサ 623

40.1	#include ディレクティブ	623
40.2	#define	627
40.2.1	オブジェクト風マクロ	627
40.2.2	関数風マクロ	628
40.2.3	__VA_ARGS__ (可変長引数マクロ)	629
40.2.4	__VA_OPT__	630
40.2.5	#演算子	630
40.2.6	##演算子	631
40.2.7	複数行の置換リスト	632
40.2.8	#undef ディレクティブ	632
40.3	条件付きソースファイル選択	633
40.3.1	プリプロセッサの定数式	633
40.3.2	#if ディレクティブ	635
40.3.3	#elif ディレクティブ	636
40.3.4	#else ディレクティブ	637
40.3.5	#ifdef, #ifndef ディレクティブ	637
40.4	#line ディレクティブ	638
40.5	#error ディレクティブ	639
40.6	#pragma	640

40.7	Null デイレクティブ	640
40.8	定義済みマクロ名	640
第 41 章	分割コンパイル	641
41.0.1	ソースファイルとコンパイル	641
41.0.2	単一のソースファイルのコンパイル	641
41.0.3	ヘッダーファイルはコピペ	642
41.0.4	複数のソースファイルのコンパイル	642
41.1	オブジェクトファイル	643
41.2	複数のソースファイルの書き方	644
41.2.1	関数	644
41.2.2	変数	647
41.2.3	インライン関数/インライン変数	649
41.2.4	クラス	651
41.2.5	テンプレート	656
第 42 章	デバッガー	657
42.1	GDB のチュートリアル	658
42.2	プログラムの実行	662
42.3	プログラムの停止方法	662
42.3.1	ブレイクポイント	662
42.3.2	条件付きブレイクポイント	666
42.4	プログラムの実行再開とステップ実行	667
42.4.1	実行再開 (continue)	667
42.4.2	ステップ実行 (step)	667
42.4.3	ネクスト実行 (next)	669
42.4.4	関数から抜けるまで実行 (finish)	669
42.5	バックトレース	670
42.6	変数の値を確認	672
42.7	シグナルによるプログラムの中断	673
42.8	コアダンプを使ったプログラムの状態の確認	674
索引		676
著者プロフィール		686